

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公表番号】特表 2007-500713 (P2007-500713A)

【公表日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【年通号数】公開・登録公報 2007-002

【出願番号】特願 2006-522067 (P2006-522067)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/22 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 47/22

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 27 日 (2007.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

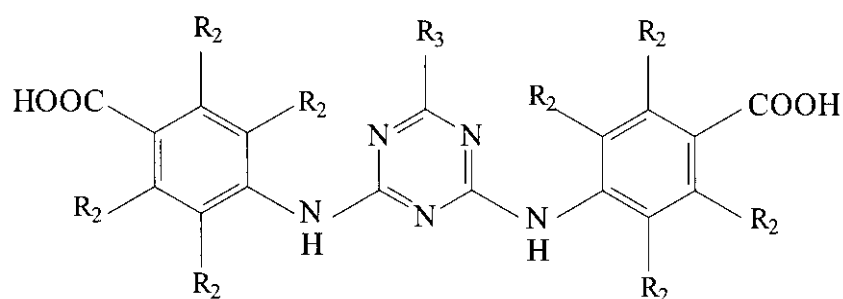
【請求項 1】

以下の：

生理活性化合物；並びに

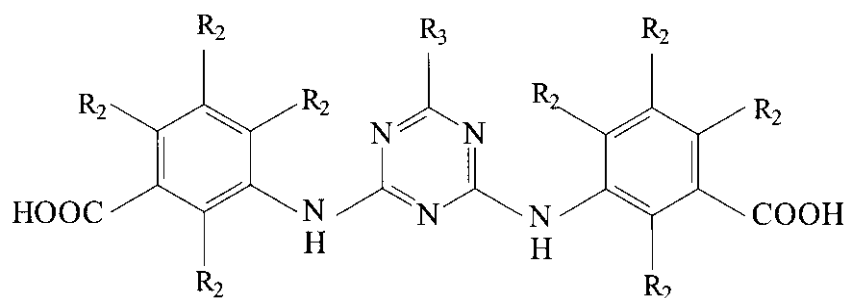
以下の：

【化 1】



または

【化 2】



{式中、

各 R_2 は、独立して、いずれかの電子供与性基、電子求引性基および電子中性基から選択され、そして

R_3 は、 R_3 の環内の窒素原子を通してトリアジン基に結合された、置換された芳香族複素環、未置換の芳香族複素環、置換された複素環式環および未置換の複素環式環よりなる群から選択される} 又はそのプロトン互変異性体 又はそれらの塩を含むトリアジン化合物；

を含む生理活性組成物。

【請求項 2】

各 R_2 が、独立して、以下の：水素、未置換のアルキル基、及びヒドロキシ、エーテル、エステル、スルホネートまたはハライド官能基によって置換されたアルキル基よりなる群から選択される、請求項 1 に記載の生理活性組成物。

【請求項 3】

R_3 が、以下の：ピリジン、ピリダジン、ピリミジン、ピラジン、イミダゾール、オキサゾール、イソオキサゾール、チアゾール、オキサジアゾール、チアジアゾール、ピラゾール、トリアゾール、トリアジン、キノリンおよびイソキノリンよりなる群から誘導された芳香族複素環を含む、請求項 1 に記載の生理活性組成物。

【請求項 4】

R_3 が、ピリジンまたはイミダゾールから誘導された芳香族複素環を含む、請求項 3 に記載の生理活性組成物。

【請求項 5】

R_3 が、以下の：ピリジニウム-1-イル、4-(ジメチルアミノ)ピリジニウム-1-イル、3-メチルイミダゾリウム-1-イル、4-(ピロリジン-1-イル)ピリジニウム-1-イル、4-イソプロピルピリジニウム-1-イル、4-[(2-ヒドロキシエチル)メチルアミノ]ピリジニウム-1-イル、4-(3-ヒドロキシプロピル)ピリジニウム-1-イル、4-メチルピリジニウム-1-イル、キノリニウム-1-イル、4-第三級ブチルピリジニウム-1-イルおよび4-(2-スルホエチル)ピリジニウム-1-イルよりなる群から選択される、請求項 4 に記載の生理活性組成物。

【請求項 6】

前記生理活性化合物が薬剤である、請求項 1 に記載の生理活性組成物。

【請求項 7】

水及びクロモニック M または N 相を含む、請求項 1 に記載の生理活性組成物。

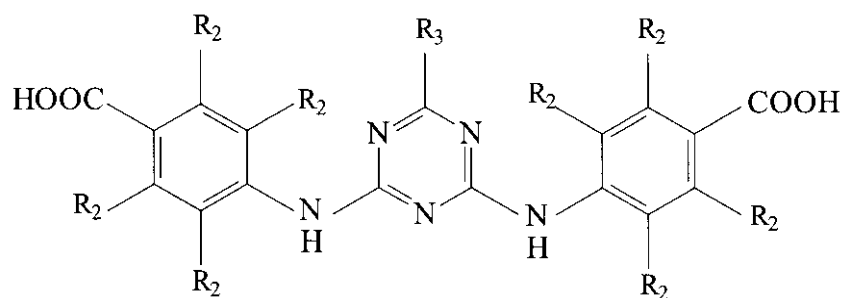
【請求項 8】

以下の工程：

(a) 生理活性化合物を提供する工程；

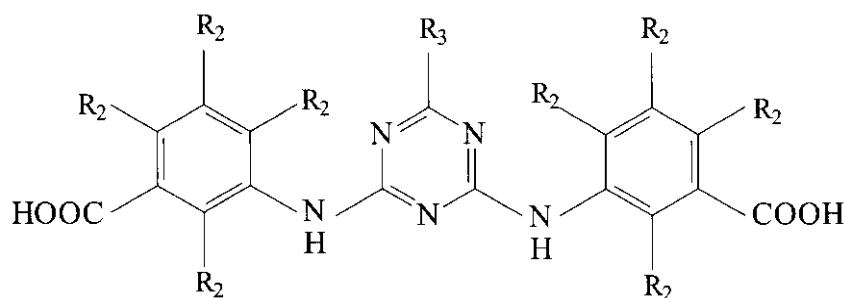
(b) 以下の：

【化 3】



または

【化 4】



{式中、

各 R_2 は、独立して、いずれかの電子供与性基、電子求引性基および電子中性基から選択され、そして

R_3 は、 R_3 の環内の窒素原子を通してトリアジン基に結合された、置換された芳香族複素環、未置換の芳香族複素環、置換された複素環式環および未置換の複素環式環よりなる群から選択される} 又はそのプロトン互変異性体 又はそれらの塩を含むトリアジン化合物を提供する工程；及び

(c) 前記生理活性化合物と、前記トリアジン化合物と、溶媒とを併合して組成物を形成し、該組成物中で溶解可能な上記生理活性化合物の量が、前記トリアジン化合物を含有しない同一の組成物中で溶解可能な上記生理活性化合物の量よりも多いことを特徴とする前記組成物を形成する工程；

を含む、生理活性組成物中の生理活性化合物の溶解性を増加させる方法。

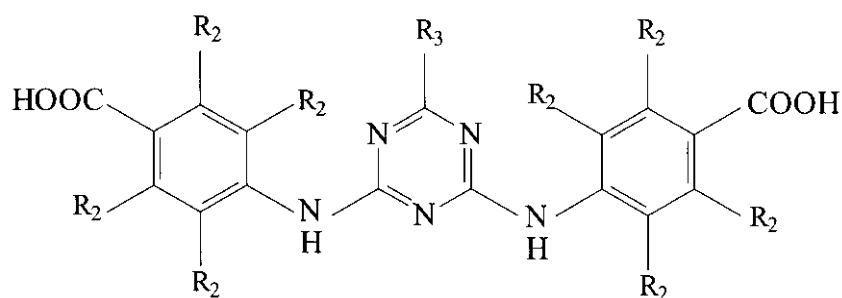
【請求項 9】

以下の工程：

(a) 生理活性化合物を提供する工程；

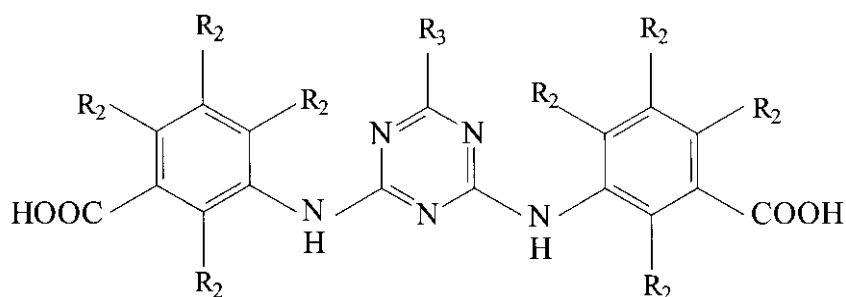
(b) 以下の：

【化 5】



または

【化 6】



{式中、

各 R_2 は、独立して、いずれかの電子供与性基、電子求引性基および電子中性基から選択され、そして

R_3 は、 R_3 の環内の窒素原子を通してトリアジン基に結合された、置換された芳香族複素環、未置換の芳香族複素環、置換された複素環式環および未置換の複素環式環よりなる群から選択される} 又はそのプロトン互変異性体 又はそれらの塩を含むトリアジン化合物を提供する工程；及び

(c) 前記生理活性化合物と、前記トリアジン化合物と、溶媒とを併合して組成物を形成し、該組成物中の上記生理活性化合物の安定性が、前記トリアジン化合物を含有しない同一の組成物中の上記生理活性化合物の安定性よりも高いことを特徴とする前記生理活性組成物を形成する工程；

を含む、生理活性組成物中の生理活性化合物の安定性を増加させる方法。